
仮初の平和

詩織

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮初の平和

【Nコード】

N5130Y

【作者名】

詩織

【あらすじ】

村を滅ぼした少女、澪。なぜこんなことがおきたのだろうか？

プロローグ

プロローグ

ここは灯波沢村。ひなみさわしかし大災害が起きてしまい村は滅びた。とある少女のせいで・・・

「どうしてこんなことにまっってしまったの？凜」

一人の少女がつぶやく。

少女の名は竜宮寺 漣。りゅうくうじ みお

七歳くらいに見える。

真っ白いワンピースを着ていて袖はない。

冬なのに夏服を着ていた。

あたり一面に雪が積もっていて漣にもうつすらと積もっていた。

漣は空を見ると灰色で雪が降ってくる。

漣はふらつきながらも立ち上がった。

そして灰色のかかった瞳に光が宿る。

そこに一人の少年がやってきた。

少年の名は桜庭 紺。さくらば こん

漣の隣に立つとゆっくりと漣に向き合う。

「紺。あのね・・・」

漣は語り始めた。

変わらない日常（前書き）

すいません 零の年齢は10歳です。

変わらない日常

これは事件の起こる前の日常――

そしてこれはある日の下校中のことだった。

「村人全員にかかっている病氣知っている？」

無邪気に聞くのは凜。

この少女は鈴宮 凜。

漣と同じ年齢だ。

「灯波沢症候群だよね？」

答えたのは漣。

しかし不安そうだ。

「うん・・・そんなんだけどね」

凜も不安そう。

紺は横から凜に聞いてみた。

「どうした？凜」

「紺、灯波沢症候群ってさレベル1～5まであるんでしょ？」

漣も聞いてみた。

「うん」

紺はうなずいた。

「寒いよ」

凜はそう言うと言と手をこすり合わせる。

凜はミニスカートなので寒いも同然なのだが、凜はわかってはいない。

漣と紺はわかっていたので二人でくすくす笑う。

「な・・・何笑っているのよー！」

凜は叫ぶ。

他の人から見れば良い風景なのかもしれない。
しかし、それは仮初の平和でしかなかった。

だって、三人にはわかっていなかった。たこついう平和は長くは続かないことを。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5130y/>

仮初の平和

2011年12月1日19時52分発行